

はじめに

令和6年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和6年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和6年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和6年度の授業は新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられたことにより、原則対面で授業が行われました。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。回収率を向上するという目標を立て、今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度も40%を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つであり、令和7年度は向上のための新たな施策を講じる予定です。令和6年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。全体としての学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部・学科・専攻ごとの違いを知ることができますし、授業時間以外の学修時間は少ないという従来からの課題は残念ながら残っています。

令和6年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期はオンラインにて、後期は久しぶりに対面で開催することができました。前期は7月31日に「学士課程教育のカリキュラムマネジメント」というテーマで行いました。青山学院大学 教授 杉谷祐美子氏に学士課程教育のカリキュラム改革を進めるにあたり、近年の動向や体系的な編成等についてご講演いただきました。講演内容に関する満足度が高く、カリキュラムマネジメントの全体像と実態とを俯瞰し本学における教育を考えるうえで大変参考になった、また、教育目標に関する解説がシラバスを作成する際の参考になった等の感想が寄せられました。後期は12月17日に筑波大学 准教授 田中正弘氏を講師としてお迎えし、「学生参画による授業改善およびカリキュラム改善～学生参画で得られる効果～」というテーマで行いました。第1部では、本学および他大学や諸外国で行われている学生参画を参考に学生参画から得られる効果の講演、第2部ではワークショップを実施し、参加者間で活発な意見交換が行われました。学生の参画・主体性の引き出し方について具体的な説明があり非常に理解しやすかった、また、ワークショップを通じて具体的な取り組みの内容や方向性を共有することができた等の意見が多く寄せられました。

各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。例年と同じく参加した非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられました。非常勤講師の方に感謝申し上げます。

引き続き、これまでの経験と実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を図っていきます。今後ともご協力の程お願いいたします。